

# 誰ひとり取り残さない！

## 藤松小 × SDGs = 未来の担い手

### 2030年までのゴール

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略称です。

日本語で sustainable（サステナブル）とは、「持続可能な」という意味です。

「持続可能な」という意味は、・・・。

例えば、石油資源に頼る社会は、石油が枯渇すると持続できないため、持続可能な社会ではありません。また、海をどんどん汚染させる社会は、水産物資源（漁業など）が持続できないため、持続可能な社会ではありません。

こうした社会ではなく、地球環境を汚染・略奪することなく、永続的に繁栄できることを「持続可能」と言います。

そのため、SDGs（Sustainable Development Goals）を直訳すると「持続可能な開発目標」を意味します。SDGsとは「世界中の皆で目指す、永続的な社会・地球環境を構築するための目標」です。このSDGsは2015年9月の国連サミットで採択されました。

持続可能な開発目標（SDGs）に示された17のゴールと169のターゲットは、どれも人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップという5つの要素のいずれか一つ以上に関わりを持っています。

これらの目標は世界の人々がみんなで協力して目指していこう！！と合意したものであり、とても大切な内容です。

# 5つのP (SDGs 17のゴールを支える5つの要素)

## ★People (人間)

<世界の貧困をなくす>

- ① 貧困をなくそう
- ② 飢餓をゼロに
- ③ すべての人に健康と福祉を
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に

## ★Planet (地球):

<環境を守り育てる>

- ⑪ 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ つくる責任つかう責任
- ⑬ 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ 海の豊かさを守ろう
- ⑮ 陸の豊かさを守ろう

## ★Prosperity (豊かさ)

<「つづく経済」をつくる>

- ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑧ 働きがいも経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう

## ★Partnership (協働)

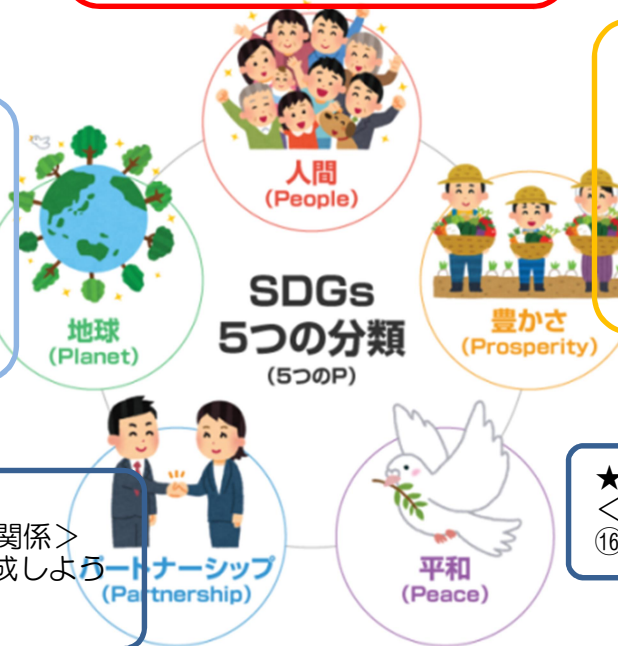
<SDGsを実現する資金と協力関係>

- ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう
- ⑰の目標が掲げられています。

## ★Peace (平和)

<SDGsを実現する仕組み>

- ⑯ 平和と公正をすべての人に



## <「ESD」と「SDGs」との関係>

**E**ducation (教育) for

**S**ustainable (持続可能な)

**D**evelopment (開発)

**G**oals (目標)

持続可能な開発のための教育 (ESD)

持続可能な開発目標 (SDGs)

○「ESD」と「SDGs」はともに、

「SD: Sustainable Development (持続可能な開発)」に関するものです。

○約40年前に提唱された国連で採択された「SD: 持続可能な開発」の概念を基に、

- 実現のためには教育が重要であるとして日本政府が2002年のサミットで提唱したものが「ESD (Education for Sustainable Development)」
- 2015年の国連で、全会一致で採択された、世界全体で2030年までに達成すべき目標が「Sustainable Development Goals」です。

# 本市におけるSDGsの視点を踏まえた学校教育について

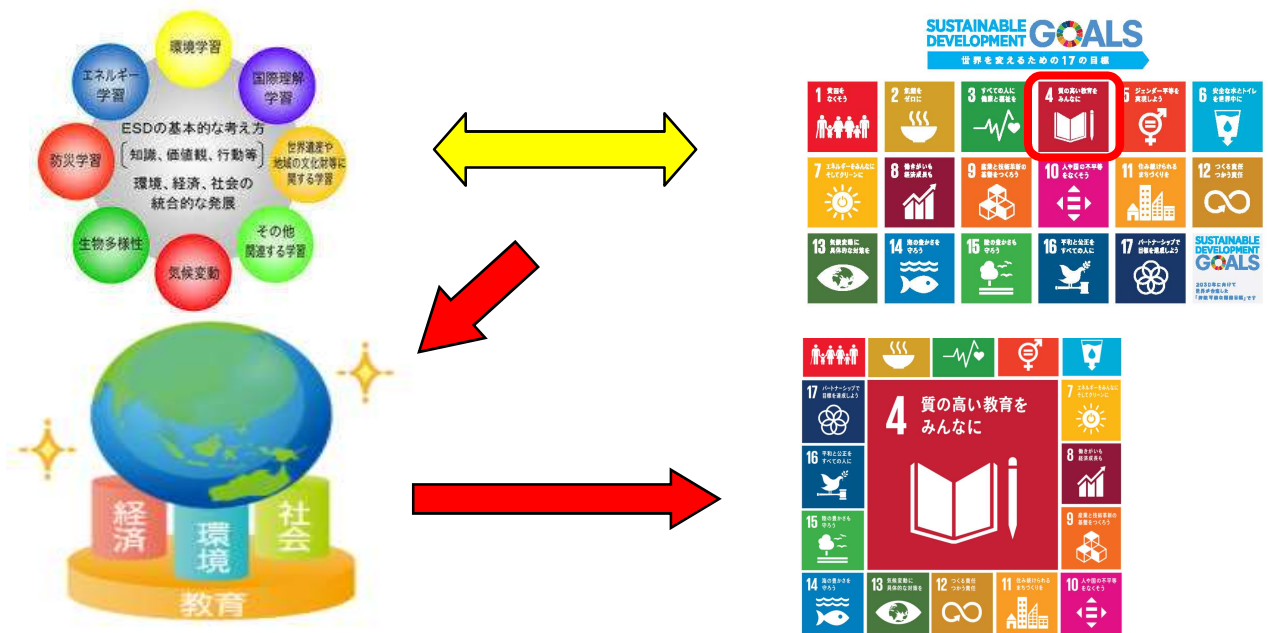
## 1 SDGsにおける学校教育の位置付け（「平成30年度11月総合教育会議より一部抜粋」）

教育はSDGs（Sustainable Development Goals）の目標4「質の高い教育をみんなに」に位置付けられている。さらに、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎である」と言われています。（日本ユネスコ国内委員会：2017.11）

一方、北九州市ではこれまで、持続可能な社会の担い手を育む、ESD（Education for Sustainable Development）を踏まえた教育を進めてきています。

このESDの推進を通じて、SDGsのゴール「質の高い教育」に貢献するだけでなくSDGs全体の基盤にもなると考え本市学校教育を進めています。

### 教育/ESD と持続可能な開発目標（SDGs）



「教育が全てのSDGsの基礎である」  
（日本ユネスコ国内委員会：2017.11）

## 2 SDGsの視点を踏まえた本市学校教育の目標（「平成30年度11月総合教育会議より一部抜粋」）

学校の教育活動全体をSDGsの視点から見直し、多様な問題が絡み合い解決が困難な現代の課題の重要性について子ども達が認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育みます。

※SDGsの視点が含まれる学習のアプローチとしては、各教科、特別の教科 道徳等以外に環境教育・福祉教育・国際理解教育・キャリア教育・情報教育・人権教育等が考えられます。



## 目標4「質の高い教育を本市全ての子どものために」

### SDGsの視点を踏まえた本市学校教育のイメージ

#### ■SDGsへのアプローチ

 <p>環境</p>	<p>環境アクティブ・ラーニング（小学校第4学年）総合的な学習の時間</p> <p>・体験を通して、本市の自然環境・環境保全についての理解を深め、実践力を高める。</p>	
 <p>人権</p>	<p>人権教育教材集「新版 いのち」「北九州子どもつながりプログラム」道徳、特別活動</p> <p>・人権に関する理解を深め、自他共に大切にする心情を育む。</p>	
 <p>福祉</p>	<p>高齢者体験・車いすバスケット交流（小学校高学年）道徳、総合的な学習の時間</p> <p>・体験や交流活動を通して、共に生きようとする態度を育む。</p>	
 <p>キャリア</p>	<p>職場体験、農村民泊体験学習（中学校第2学年）総合的な学習の時間</p> <p>・職業に関わる体験活動を通して、生き方、働き方、進路についての理解を深める。</p>	
 <p>国際理解</p>	<p>文化交流（小学校第6学年～中学校）外国語活動、総合的な学習の時間</p> <p>・交流活動を通して、異文化理解を深め、共に生きようとする態度を育む。</p>	
 <p>情報</p>	<p>ICT活用（小学校第1学年～中学校第3学年）各教科、総合的な学習の時間、特別活動</p> <p>・ICT機器の活用を通して、情報活用能力を育む。</p>	
 <p>新 ふるさと</p>	<p>新たな取組みとして地域教材資料集「だいすき！北九州」（小学校第3学年～第6学年）の作成</p> <p>・本市のまちのよさについての理解を深め、誇りと愛情を育む。</p>	



#### ＜持続可能な開発のための教育（ESD）の推進＞

多様な問題が絡み合い、解決が困難な現代の課題の重要性について子どもたちが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を、学校の教育活動全体を通じて育みます。

#### SDGsの視点に立った教育活動で育成する資質・能力

- 自分事として課題を捉える力
- コミュニケーション力
- 進んで参加する態度
- 多面的・多角的・総合的な思考
- 他者と協力する力
- 未来像を予想した立案力
- つながりを尊重する態度
- 批判的に考える力



ユネスコスクール推進指定校

# 北九州市立藤松小学校の取組

児童数228名 〒800-0047 北九州市門司区藤松一丁目19番1号

TEL093-391-2300

4 質の高い教育を  
みんなに



## ＜オンラインによる学習参観＞

コロナ禍で、学校行事のほとんどが今までのようにできないなか、「With コロナからPOSTコロナ」取組として、Microsoft Teams のライブ配信を活用して、一週間の期間に全学級を学年ごとに曜日分けして、学習の様子をオンラインで保護者に Web 配信しました。教室に、タブレット端末を5台使用して、子どもたちの学習の様子をできる限り、音と映像で保護者の方に視聴してもらいました。実施後の保護者アンケートでは、保護者の方からコロナ禍での学校の取組に、日頃来校することが困難な祖父母も家で、一緒に見ることもできたなどの、回答もいただくことができました。



## ＜子ども読書の日の取組＞

4月23日の子ども読書の日に、上級生による読み聞かせを行いました。コロナ禍のなか、感染症予防のため、体育館でフィジカルディスタンスを確保で行いました。読書をすることで、言語活動の充実だけでなく、高学年児童が低学年児童に読み聞かせすることで、リーダーとしての意識と自尊感情の向上にもつながりました。



11 住み続けられる  
まちづくりを



## ＜ミュージアムツアーfor SDGs＞

北九州市が主催する「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」に参加しました。そこでは、SDGs をテーマに制作した作品を鑑賞し、一人ひとりの感性を高める学習を行いました。



## ＜交通安全教室＞

学校に登下校する時には、車の交通量が多い個所やドライバーから見て、歩行者の確認がしにくい場所等があります。そのような場所を毎日通学路として安全に通うために生活安全パトロール隊等による安全指導が行われています。特に新1年生は、交通安全協会より指導員の方に来校していただき、登下校の際の交通ルール等を学ぶ取組を行っています。



15 陸の豊かさも  
守ろう



## ＜田んぼ再生プロジェクト始動＞

第5学年児童が、総合的な学習の時間に、社会科での「未来を支える食料生産」の単元の中での「米作り」と関連付け、校地内の一角を活用して、田んぼを再生しました。レンガで囲まれた3m×6mに防水シートを張り、そこに土を入れ、整地しました。その後、水をいれ、数日放置して、水が張った田んぼに児童が入



り、足を使って田植えができるように、田んぼをならしました。次に、農協からいただいた稲の苗を田んぼに植えました。子ども達は、泥だらけになりながら、田植えを楽しく行いました。秋には、収穫したお米を使って、野外炊飯を行うことにしています。

＜「田んぼの学校」(西友枝体験交流センター)への参加＞  
 築上郡上町での農業体験(「田植え体験」、「生き物調査」、「稲刈り体験」、「掛け干し体験」)や農業用施設の見学を通じて、田んぼでのお米の栽培や、雨水を一時的に貯めて洪水・土砂崩れなどを防いだり、田んぼが多様な生きものを育む重要な役割を担っていたりすることを「田んぼの学校」で学んだ。



### ＜手洗い道場＞

本校では、コロナ禍の中、感染症予防の取組の一つに手洗いの徹底を行っている。トイレを使用した後はもちろんのこと、外遊び後、昼食前などを中心に実施している。



特に、昼休みには、保健委員会の児童が1年生の教室へ行き、手洗い指導を行っている。内容は、紙芝居を用いて手洗いの大切さやウイルスの性質などを1年生に分かりやすく教えている。さらに、きちんと手洗いできたか、手洗いチェックBoxで確認している。最後に、手洗いを楽しく行うために、「手洗いうた」の音楽とともに保健委員会の児童と1年生と一緒に手洗いをして「手洗い道場」を終了している。



### ＜平和に関する学習＞

本校では、修学旅行で筑前町立大刀洗平和祈念館に行き、10代の若者が特攻隊として、敵戦艦めがけて零式戦闘機ともども体当たりして亡くなってしまったことなどや戦争での多くの展示資料等で戦争の悲惨さと平和の大切さを学びました。また、私たちは、ここで学んだことを将来にわたって、まわりの人に語り継いでいかなくていけないと思いました。戦争を二度と繰り返さないという誓いと、世界平和への願いを込めて、事前に全校児童で作成した千羽鶴を献納し、平和宣言をしました。修学旅行後には、この体験をもとに平和に関する学習をグループごとで振り返り、総合的な学習の時間で発表しました。



### ＜人権学習・参観授業＞

学校では人権教育を日頃より教育活動全体のなかで行っています。今回の参観授業では、学校では人権について何を学び、どのようなことに気づき、行動していかなければならないかを子どもと保護者が一緒になって考えてもらう取組を行いました。

